

ほおずき能

平成27年8月23日(日) 午後1時開演

(午後12時開場)

大濠公園能楽堂

解説へ五番立ての仕舞・舞囃子へ

舞囃子(喜多流)

高砂 栗谷幸雄

大鼓 白坂信行 太鼓 吉谷 潔
小鼓 飯富章宏 笛 出雲敏弘

地謡 塩山良一 角野明弘
末松有二 渡邊康喜

能は、シテが演じる役柄によって「神・男・女・狂・鬼」の五つのジャンルに分けられます。そして、この五種類を順番どおりに演能することを「五番立て」といいます。

仕舞(宝生流)

生田敦盛 敦盛 山岡晴美

地謡 田中トシエ
久貫弘恭 三澤栄子

仕舞(金春流)

羽衣 天人松井笙子

地謡 田中寿男
櫻間右陣 東軍三 北山春彦

仕舞(観世流)

通小町 深草少将 森本哲郎

地謡 井内政徳
鷹尾章弘 鷹尾祥史 今村嘉太郎

舞囃子(観世流)

氷室 多久島法子

大鼓 白坂保行 太鼓 田中 達
小鼓 幸正佳 笛 浦政徳

地謡 松田美栄子
木月晶子 菊本美貴 菊本 澄代

休憩 二〇分

解説へ室町の世。人々が憧れた異国の世界へ

狂言(和泉流)

茶子味梅 夫・唐人 野村万禄

妻・日本人 吉住 講
教え手 吉良博靖

大鼓 田中 達
大鼓 白坂 保行
小鼓 幸正 佳 笛 浦政徳
笛 森田徳和

能(観世流)

舞童 今村莊介
廬生 久保誠一郎

邯鄲 勅使坂苗 融

大鼓 白坂信行 太鼓 吉谷 潔
小鼓 飯田清一 笛 相原一彦

大臣 御厨誠吾
興昇 松本義生
興昇 坂苗 功

宿・女主 中島清幸

後見 森本哲郎
坂口信男

地謡 井内政徳 鷹尾章弘
今村剛一 嘉太朗 今村嘉伸
山口一郎 多嶋利之
今村 鷹尾維教

終了予定五時頃

◆五番立てとは？

◆あらすじ

舞囃子 高砂(初番目物)

住吉明神が力強い舞を舞い平安な世を祝福する。

仕舞 生田敦盛(二番目物)

平敦盛の霊が生田の合戦のことを語り、修羅道の責め苦の有様を見せられ、やがて弔いを頼む。

仕舞 羽衣(三番目物)

羽衣を身にまとった天人が、三保の松原の春景色をめどながら、天上界の舞を舞う。

仕舞 通小町

深草少将の霊が小野小町の元へ百夜通った有様を見せるが、僧の弔いで成仏する。

舞囃子 氷室(五番目物)

氷室の神が氷を持って現れ、氷を作り保つ威力を示し氷を守護して都へ送り届ける。

狂言 茶子味梅

夫は唐人、妻は日本人で十年余り連れ添っている。このごろ夫は「日本人無心我唐妻恋」「ちやさんばい」「きさんばい」などといくつか奇妙な言葉を口にしては泣くことが多い。妻は物知り にその意味を尋ねると「故国の妻が恋しい」「茶が飲みたい」「酒が飲みたい」という意味と知る。夫が帰宅すると酒を飲ませると、上機嫌で歌ったり舞ったりするが、さてこの結末は！

能 邯鄲(四番目物)

古の中国が舞台。廬生という若者が人生に疑問を持ち、仏の道を求めている旅の途中、邯鄲の里で雨宿りをする。宿の女主人が不思議な枕を勧めてくれるので昼寝の床につくと、国の帝の使が来て廬生を起こし都へ導き、廬生は帝へ即位する。廬生は満ち足りた栄華を味わう。即位五十一年の酒宴では舞童の舞を見、自分も舞に興じるが、それは全て夢の中の出来事で、宿の寝台に寝ていたのだ。又、その夢は粟の飯がたける間の僅かな時間だったと知り茫然としたが、やがて人生を悟り心安らかに故郷に帰るのだった。

女

〔三番目物、鬘物能〕

伊勢物語や源氏物語に典拠したものが多く、優雅で美しい歌や舞を見せ場としている能です。多くは女性の亡霊の恋する想いが、成仏せずに漂っているという想定です。

狂

〔四番目物、雑能〕

人間の悲しみや苦しみの極限状態を美しく詩的に展開する能です。他の四つのグループに入らない作品は皆ここに分類されます。

鬼

〔五番目物、切能〕

鬼、天狗、妖精、龍神などが登場する能です。いずれも急テンポの激しい動きを見せ、全曲に太鼓が加わり、囃子も華やかで、演出も派手です。五番立の最後なので切能とも呼ばれ、一日の締めくくりとなります。